

事業成果報告書

[取組 I] 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 北海道教育委員会

2. 取組の名称 : 北海道「小中一貫教育推進事業」

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

義務教育9年間終了時点での望ましい教育成果を強く意識した計画的・継続的な指導を行うモデル地域を指定し、取組の進捗状況の可視化や成果の効果的な普及を併せて行うことにより、本道全体での小中一貫教育の展開及び小中連携教育の高度化を図り、もって北海道教育の喫緊の課題である基礎学力保障、生活習慣の確立に資するとともに、次期学習指導要領改訂で想定される教育活動の高度化の基盤を構築する。

(2) 事業の実施状況

年2回の会議（北海道小中一貫教育推進協議会、北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議）において、協力市町教育委員会及び協力校の取組内容や進捗状況について共有するとともに、北海道教育の喫緊の課題である基礎学力保障、生活習慣の確立に資する小中一貫教育の在り方や本道全体への小中一貫教育の普及の方策等について協議した。

(3) 事業の成果

- ・年2回の会議（北海道小中一貫教育推進協議会、北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議）を開催した。
- ・北海道における小中一貫教育推進の考え方及び今後の見通しを協議し、共通理解した。

(4) 今後の取組予定

- ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議の開催（年2回）
- ・「小中一貫教育」説明会の開催
- ・小中一貫教育の質の向上のための効果的な教職員研修プログラムの作成
- ・隣接校種の教員免許の取得促進のための認定講習の運営等に関する調査研究
- ・小中一貫教育に関する人事異動方針、加配方針の決定

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

協力市町教育委員会及び協力校において先導的な取組が推進されるよう支援を充実させる。また、道内の各市町村において小中一貫教育の導入が拡充するよう指針を示すとともに、資料等を作成し、普及・啓発を図る。

(2) 取組 I の実施状況（平成27年度）

10月	・北海道「小中一貫教育推進事業」の事業計画の立案及び推進体制の整備 ・全国学力・学習状況調査結果の詳細な分析による成果、課題の把握
11月	・北海道小中一貫教育推進協議会の開催（事業の趣旨、今後の取組等）
12月	・指定地域や学校に対する指導主事による継続的な指導・助言
1月	・「ほっかいどうチャレンジテスト」による学力の状況の把握 ・小中一貫教育全国サミット参加（奈良市）
2月	・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議の開催（取組の成果と課題、次年度の見通し、有識者からの助言等） ・教職員アンケート、児童生徒アンケートの作成、実施
3月	・今年度の成果と課題のまとめ

(3) 取組の成果

- ・小中一貫教育推進方針（ポリシー）案の作成
- ・小中一貫教育推進の手引案の作成
- ・取組の成果を検証するための教職員アンケート案、児童生徒アンケート（進学、学習方略）案の作成

(4) 今後の取組予定

- ・全国学力・学習状況調査結果の詳細な分析、「ほっかいどうチャレンジテスト」の経年分析による成果・課題の把握
- ・小中一貫教育推進方針（ポリシー）の策定
- ・小中一貫教育推進の手引の作成
- ・教職員アンケート、児童生徒アンケート（進学、学習方略）実施、変容の把握
- ・大学関係者や先進地域などのアドバイザー、指導主事による継続的な指導・助言
- ・先進地域の視察、全国フォーラム等への積極的な参加による小中一貫教育の先進的な取組事例の収集・分析

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ－1	白糠町教育委員会	
Ⅱ－2	中標津町教育委員会	
Ⅱ－3	当別町教育委員会	
Ⅱ－4	旭川市教育委員会	

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 1

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 白糠町教育委員会

住所 : 北海道白糠郡白糠町西1条南1丁目1番地1

代表者職・氏名 : 白糠町教育委員会教育長 板谷 聖一

2. 取組の名称 : 白糠町「小中一貫教育推進事業」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本町が平成9年より実施している、「ふるさと教育」の充実のため、義務教育段階においてより系統的な学習が展開されるよう、小中一貫教育に取り組む。また、小学校段階・中学校段階の指導法を交流し、9年間を通じたカリキュラム作成により、教師一人一人の指導力を高め、授業改善を図るとともに、児童生徒の学力・体力向上を図る小中一貫教育を推進する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	<ul style="list-style-type: none">・「白糠町小中一貫教育グランドデザイン」の完成・町教委による町内すべての教職員を対象にした「白糠町小中一貫教育の取組について」の講話（10/20、町研全体集会の中で）・児童生徒の学力・生活状況の検証（チェックリスト、全国学力・学習状況調査等）・小中一貫教育推進プロジェクトの立ち上げ（庶路小・中）
11月	<ul style="list-style-type: none">・北海道小中一貫教育推進協議会へ出席（札幌市、5名）・「庶路・西庶路地区義務教育学校開校準備委員会」の設置・「小中一貫校ロードマップ」「小中一貫校ステップアップシート」の作成（白糠小・白糠中）
12月	<ul style="list-style-type: none">・第2回白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催（12/25、白糠町役場、出席者9名）・大学関係者（白糠町小中一貫教育アドバイザー）、釧路教育局の指導主事による指導・助言・「小中一貫校ステップアップシート」の作成（茶路小中）・参考図書購入、各学校への配布（24冊）・「校内研修プログラム」を活用した校内研修の実施・義務教育段階終了時点での子ども像の明確化・各教科等の学習内容を身に付けた子ども像の明確化
1月	<ul style="list-style-type: none">・「小中一貫教育」に係る道外先進地視察研修の実施（1/11～14、宮崎県美郷町ほか、7名）・「第10回小中一貫教育全国サミットinなら」への参加および「小中一貫教育」に係る道外先進地視察研修の実施（1/27～1/31、奈良市・京都市、2名）

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫教育」に係る道外先進地視察研修の還流会の開催（町研全体会議の中で） ・「小中一貫校ロードマップ」の作成（茶路小中） ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（札幌市、6名） ・実績報告書の作成、提出
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催（3/17、白糠町役場、出席者10名の予定） ・大学関係者（白糠町小中一貫教育アドバイザー）、釧路教育局の指導主事による指導・助言 ・小中一貫した学習規律・生活規律の策定（試案） ・ふるさと教育の推進計画の見直し ・本年度のまとめと課題整理並びに来年度の活動についての協議

（3）取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「白糠町小中一貫教育グランドデザイン」を示すことにより、今後の方向性について、関係者で共通理解を図ることができた。 ・研修会や講話等の実施を通して、教職員の「小中一貫教育」に対する理解が深まった。 ・各学校区ごとに「小中一貫校ロードマップ」「小中一貫校ステップアップシート」を作成し、平成30年4月からの「小中一貫教育」実施に向けた取組内容が年次別に整理された。 ・白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議等において、白糠町小中一貫教育アドバイザーや釧路教育局の指導主事から指導・助言を得て、次年度に着手する9年間を見通したカリキュラムの作成に向けた検討を行った。 ・先進地視察や全国フォーラムへの参加等により、多くの先行事例を学び、他の教職員へ還流することができた。 ・中学校教諭による「出前授業」の実施、小学校5・6年生児童を対象とした「中学校登校日」の実施など、学校による自主的な取組が行われた。 ・「庶路・西庶路地区義務教育学校開校準備委員会」を設置し、学校・保護者・地域・行政が一体となって開校に向けた準備を進めることができた。 ・基礎学力を保障する小中一貫教育カリキュラムモデル（試案）を作成することができた。
--

（4）今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）白糠地区、茶路地区小中一貫教育校開設準備委員会の設置 ・白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催 ・（仮称）白糠町小中一貫教育フォーラムの開催 ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席 ・「小中一貫教育」説明会へ出席 ・先進地視察研修の実施、小中一貫教育全国サミットへ参加 ・各学校区（白糠地区・庶路地区・茶路地区）における9年間を見通したカリキュラムの作成 ・小中一貫教育推進方針（ポリシー）の作成 ・発達の段階に応じた学習方略（学び方）の系統表の作成 ・教職員アンケート、児童生徒アンケートの実施 ・新教科（小中一貫教科等）についての内容精査（仮称「ECタイム」） ・小中一貫教育校としての特色ある教育の在り方についての検討

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 2

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 中標津町教育委員会

住所 : 標津郡中標津町
丸山2丁目2番地
代表者職・氏名 : 中標津町教育委員会
教育長 小谷木 透

2. 取組の名称 : 中標津町「小中一貫教育推進事業」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本今年度から本格的に推進している中標津町立計根別学園での小中一貫教育と併せ、域内全ての小・中学校での小中一貫教育の導入に向けた取組を推進し、義務教育9年間を見通した系統性・連続性のある学習指導等の充実を図るための体制整備及び指導方法等について実践研究を行う。
また、地域・保護者との連携を図りながら、コミュニティ・スクールの導入に向けて研究・協議を行う。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	○ 全国学力学習状況調査の結果分析による児童生徒の学力や学習状況等の把握
11月	○ 第1回中標津町教育力向上推進委員会の開催 ・小中一貫教育部会 ・コミュニティ・スクール部会 ○ 北海道小中一貫教育推進協議会へ出席（札幌市） ○ 中標津町立計根別学園コミュニティ・スクール導入推進委員会の開催
12月	○ 中標津町立計根別学園コミュニティ・スクール導入推進委員会の開催
1月	○ 小中一貫教育研修会の開催 ・対象：教職員、保護者、地域住民等 ・講師：文部科学省教育制度改革室長補佐 武藤 久慶 氏
2月	○ 北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（札幌市） ○ 登別市立幌別小学校及び登別市教育委員会視察 ○ 中標津町立計根別学園コミュニティスクール導入推進委員会の開催
3月	○ 今年度の成果と課題のまとめ

(3) 取組の成果

- ・全町立小・中学校への小中一貫教育、コミュニティ・スクールの導入に向け、町PTA連絡協議会役員、町校長会及び町教頭会から推薦された教員によるプロジェクト委員会（中標津町教育力向上推進委員会）を設置し、小中一貫教育部会、コミュニティ・スクール部会ごとに協議を行い、学校における課題の洗い出しを行うとともに、今後の検討項目をまとめた。
- ・先進地での取組をもとに、本町の取組を振り返るとともに、今後の検討項目についての見直しを図った。
- ・小中一貫教育研修会の実施により、教職員、保護者、地域住民等の小中一貫教育に対する理解が深まった。
- ・中標津町立計根別学年において、9年間を見通した学習規律・生活規律の手引を作成した。
- ・中標津町立計根別学年において、9年間を見通した学習系統図及びカリキュラムを作成した。

(4) 今後の取組予定

- ・施設分離型小中一貫教育導入についての課題を明確にし、導入に向けた準備に取り組む。
- ・今年度、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を施設分離型で実践している三鷹中央学園への視察研修を計画するとともに、視察報告会を開催し、研修成果を還流する。
- ・中標津町立計根別学園における学習規律・生活規律の手引きに基づき、全町立小・中学校において手引きの原案を作成する。
- ・中標津町立計根別学園における学習系統図及びカリキュラムに基づき、全町立小・中学校において試案を作成する。
- ・小・中学校の保護者が学校教育を支援する体制を整備するため、町PTA連絡協議会との協議を進める。
- ・中標津町立計根別学園及び中標津町立中標津中学校のコミュニティ・スクール導入推進委員会と連携し、全町立小・中学校への小中一貫教育コミュニティ・スクールの導入に関する協議を行う。
- ・小中一貫教育の導入に向け、中標津町小中一貫教育基本方針（仮称）を策定する。
- ・教職員、保護者、一般住民を対象とした小中一貫教育研修会を実施する。
- ・国や道の動向を踏まえた取組を推進するため、北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席する。
- ・取組の成果を把握するため、教職員アンケート、児童生徒アンケート等を活用し、変容を把握する。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－3

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 当別町教育委員会

住所 : 北海道石狩郡当別町白樺町
58番地9
代表者職・氏名 : 教育長 本庄幸賢

2. 取組の名称 : 当別町小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

9年間を見通した教育活動を展開するとともに、9年間の系統性に配慮した各教科のカリキュラムモデルのほか、独自教科である当別学のカリキュラムモデルを作成する。また、家庭や地域が連携して学校を効果的に支援する体制を構築する。
教育懇談会や教育講演会の開催、啓発資料の配布、小中一貫教育の質を高めるための教職員への効果的な研修（先進地視察研修等を含む）など幅広く取組を進め、域内全域での小中一貫教育の推進を図る。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査の分析による課題の把握・小中一貫教育を補完する土曜学習会及び放課後学習会の実施（～2月）・教育講演会の実施及び参加者アンケートの実施
11月	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査結果の分析・北海道小中一貫教育推進協議会へ出席
12月	<ul style="list-style-type: none">・ほっかいどうチャレンジテスト（2学期末問題）実施及び結果分析
1月	<ul style="list-style-type: none">・先進地視察研修（小中一貫教育全国サミットinなら）の実施・教職員研修会の実施（ICT機器の活用について）・学校、教育委員会担当者打合せ
2月	<ul style="list-style-type: none">・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席・学校、教育委員会担当者打合せ
3月	<ul style="list-style-type: none">・教育講演会の実施・啓発資料（リーフレット）の作成・配布（保護者、地域住民）・小中一貫教育懇談会の開催・ほっかいどうチャレンジテストの実施及び結果分析・算数・数学、理科の系統表の作成・今年度の成果と課題のまとめ

(3) 取組の成果

- ・地域住民に向け教育講演会を実施したことで、町全体で小中一貫教育を推進する機運を高めることができた。また、講演会の参加者に対して実施したアンケートの結果から、小中一貫教育の効果として「特色ある学校（地域）づくり」や「学力向上」を期待する声が多いことを確認することができた。
- ・奈良市で開催された「小中一貫教育全国サミットinなら」に町内の教職員及び事務局の職員が参加し、小中一貫教育の下で行われる実際の授業を参観することで、先進的な取組に直接触れ、成果や実施上の留意点について理解を深めることができた。また、参加者が町内の教職員で構成する「当別町学校教育推進研究協議会」で視察の報告をしたことで、町内の教職員に成果を還元することができた。
- ・ICT機器の活用に関する教職員研修を実施したことで、小・中9年間を見通した効果的な活用について理解を深めることができた。
- ・次年度に向け、教育委員会の職員及び各学校の教頭、教務主任等による打合せを行い、教育委員会及び小学校、中学校の三者で次年度の取組について共通理解を図ることができた。
- ・地域住民向け啓発資料である「小中一貫教育リーフレット」を作成して各戸に配布し、地域住民の意識の啓発を図ることができた。

(4) 今後の取組予定

- ・域内全域での小中一貫教育の計画的導入に資する小中一貫教育懇談会の開催
- ・小中一貫教育の質の向上のための効果的な教職員研修の実施
- ・小中一貫教育の普及に資する教育講演会等の開催
- ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席
- ・学校における小中一貫した教育課程・年間指導計画・教科系統表、学習方略（学び方）系統表の作成及び実際の授業実践にまでつなげるカリキュラムマネジメントの構築
- ・小中一貫教育を補完する土曜日や放課後の教育活動の充実を図る体制の構築と実践
- ・学校設置者による小中一貫カリキュラムモデルの作成（英語、当別学）
- ・「地域とともにある学校づくり」の推進（コミュニティ・スクール導入に向けた検討）
- ・小中一貫教育の理解度や期待、課題把握のための町民・保護者アンケートの実施
- ・取組の成果を把握するための教職員アンケート、児童生徒アンケートの実施
- ・小中一貫教育に関する啓発資料の作成・配布

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 4

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 旭川市教育委員会

住所 : 旭川市6条通8丁目
セントラル旭川ビル

代表者職・氏名 : 教育長 小池 語朗

2. 取組の名称 : 「小中連携・一貫教育の基本的な考え方」を基にした小中連携の促進や将来的な小中連携・一貫教育の実現に向けた取組

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

小中連携教育モデル校（平成26年度～神居小学校・神居中学校、平成27年度～旭川小学校・旭川中学校）の取組や中学校区での取組シートの作成などを通して、中学校の通学区を単位とした小中連携・一貫教育を促進する。
また、平成27年度のモデル校である旭川小学校・旭川中学校に小中連携コーディネーターを配置し、平成30年度の施設一体型小中一貫教育の実施に向け、9年間を見通した系統性・連続性のある具体的な取組を推進する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

10月	<p>【各学校】</p> <ul style="list-style-type: none">平成27年度旭川市小中連携・一貫教育推進研修会で協議した「中学校区で取組を一つやってみよう」（取組シートの作成及び実践）を開始 <p>【モデル校】</p> <ul style="list-style-type: none">小中連携コーディネーター（非常勤嘱託）の配置参観日を活用した教職員の交流や小中学校合同研修の実施9年間を見通した教育課程の編成（キャリア教育）小中連携ホームページの開設「第10回小中一貫教育全国サミットin三条」への参加部活動・同好会交流の実施 <p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none">小中連携会議の企画・調整・実施課題の明確化及び成果目標の設定
11月	<p>【市教委】</p> <ul style="list-style-type: none">先進地の調査研究（金沢市教育委員会、京都市立凌風学園、宇治市教育委員会） <p>【モデル校】</p> <ul style="list-style-type: none">小中連携に関わるアンケート調査（教職員向け）の実施小学校及び中学校の教科書の展示コーナー設置北海道小中一貫教育推進協議会（道教委主催）に出席 <p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none">アンケート調査の作成、実施

12月	【教育委員会ワーキンググループ】 ・先進地の調査研究報告、教職員人事の兼務発令の検討 【モデル校】 ・小中連携コーディネーター会議の実施 【コーディネーター】 ・アンケート調査結果の検証
1月	【教育委員会ワーキンググループ】 ・先進地の調査研究報告及びワーキンググループの報告書作成 【モデル校】 ・スケジュールに沿った各種取組の実施
2月	【旭川市】 ・旭川市教育大綱への「小中連携・一貫教育の推進」の位置付け 【市教委】 ・平成28年度教育行政方針の発表及び市内全小・中学校長への周知 【モデル校】 ・取組の成果や課題の取りまとめ及び次年度の方向性の決定 ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議（道教委主催）に出席 【コーディネーター】 ・小中連携教育モデル校事業の成果報告作成、提出
3月	【市教委】 ・各中学校区での取組状況の取りまとめ及び検証 ・小中連携教育モデル校事業（神居小学校・神居中学校、旭川小学校・旭川中学校）の成果報告書を各校に配付 ・（仮称）旭川市小中連携・一貫教育検討委員会の設置に向けた手続の開始

（3）取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携教育モデル校の取組や中学校区での取組シートの作成などを通して、中学校の通学区域を単位とした小中連携が促進された。 ・平成27年度のモデル校である旭川小学校・旭川中学校に小中連携コーディネーターを配置したことにより、平成30年度の施設一体型小中一貫教育の実施に向け、キャリア教育に関わる9年間を見通した教育課程を編成するとともに、小中合同研修会を実施することができた。

（4）今後の取組予定

<小中連携促進期の2年目> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）小中連携・一貫教育検討懇談会の設置・開催（5月～9月） ・小中連携を担当する教職員を対象とした研修会と保護者や地域に理解を図るためのシンポジウムの実施（8月） ・公開研究会の開催（11月） ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（6月、11月） ・「小中一貫教育説明会」へ出席（2月） ・（仮称）「小中連携・一貫教育推進プラン」策定（パブリックコメント実施後、平成29年1月を目処に策定） ・義務教育9年間を見通した教育課程の編成 ・学習規律、家庭学習の手引の作成 ・児童生徒及び教職員アンケートの実施 ・小中連携コーディネーター（非常勤嘱託）の配置
--